

東部レインボープラン通信

令和2年11月9日発行

東部学校経営支援センター

東部レインボープランは、東部エリアの魅力ある授業等について、学校間で気軽に見学に行くことができる環境づくりを行うことをねらいとしています。昨年度は、高等学校と特別支援学校の授業見学や研究協議、情報交換等を実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により授業見学は実施できませんが、「東部レインボープラン通信」にて学校の取組事例を御紹介いたします。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、学びを保障するためのICTを活用した取組や特色ある授業等を掲載しましたので、ぜひ御覧ください。

◆ 所管校の取組紹介

《本所高校》

ICT 機器の活用により、生徒も教職員も様々なメリットに気付いた取組

《蔵前工業高校》

新型コロナウイルス感染症対策で防災と地域の安全を守るものづくりの取組

《三田高校》

第2波、第3波に備え、ICT化が急速に進んだ取組

《文京盲学校》

新型コロナウイルス感染症対策を講じた臨床実習の取組

《葛飾ろう学校》

生徒自身がICT機器を有効に活用するための取組

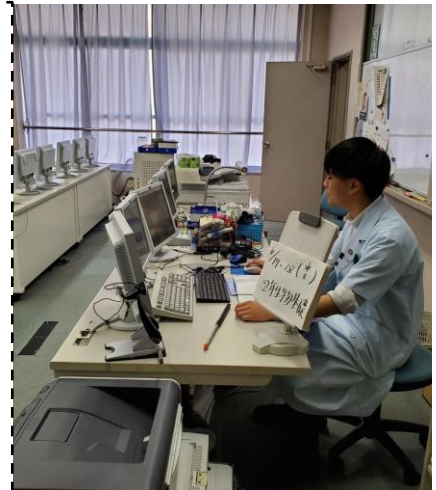
【Ⅰ 本所高校の取組】

臨時休業期間中には全ての教科においてオンライン授業を計画した。そのため研修会を実施し、全ての教員がオンライン授業に取り組み、ライブや事前に作成した授業動画を組み合わせて配信した。作成した授業動画は 200 本以上にもなる。生徒は、事前に配布された課題を家庭で学習し、授業動画を視聴し、次回の宿題に繋げていた。【YouTube による動画配信・ライブ配信（課題配信含む）・Zoom による HR・少人数授業・会議等、Classi、スタディサプリによる課題配信や諸連絡等】

また、Microsoft Office 365 の本格導入に向け、研修会を 2 回実施した。内容は、活用方法、ログイン方法、チーム作成方法、課題作成、投稿機能、オンライン授業等である。

【Ⅱ 工夫】

- 授業のライブ配信中にスタディサプリやClassi を活用し、教員の発問に対してリアルタイムで答えることで、生徒の思考・理解度・学習の定着度を把握している。
- スタディサプリで「学習到達度テスト」を実施し、苦手分野を特定したうえで、週次で連動した課題を配信した。「到達度テスト」から復習までの一連の流れを定着させている。
- 宿題配信時には、コメント欄を活用した。例えば、その課題を解くことの意味付けにつながるメッセージを送信したり、課題が未提出の生徒にプッシュするコメントを送ったりして、個々の生徒とのコミュニケーションやモチベーションの向上を図っている。



ライブ配信中の授業の様子

《オンライン授業に取り組んで良かったこと》

◆総合的な探究の時間

ガイダンス（第1回～第3回）を YouTube のライブ配信で実施したことで、総合的な探究の時間の意義や進め方を理解しやすくなり、生徒のモチベーションが向上した。その結果、休校期間中に 2 学年全員の生徒が、これまでの探究成果を論文形式（A4 で 6 枚分相当）でまとめることができた。今後も、動画配信によりガイダンスを実施する予定である。

◆動画配信による宿題

- ・登校中に動画を視聴して予習するようになり、生徒が自分のペースで繰り返し動画を視聴できることで、苦手分野を克服することにつながった。
- ・教員が自宅で動画による課題等を作成し、配信できることに気付いたため、今後コロナウイルス感染症の影響により自宅待機になった場合でも、継続して課題を配信する予定である。

◆保護者向け進路ガイダンス

これまでの進路ガイダンスは参加型だったが、動画配信することで、それぞれの保護者が見たいときに見ることができたり、聞きたい情報を繰り返し確認することができたりするため、保護者から大変好評であった。今後も進路ガイダンスは、動画配信で行う予定である。

《学校紹介》

本所高校は、進路実績の向上に力を入れており、平成 30 年度「進学指導研究校」、平成 31 年度「東部学校経営支援センター特別指定校」、令和 2 年度「進学指導研究校アソシエイト」に指定されている。また、平成 31 年度から「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」や「海外学校間交流推進校」の指定を受け、10 年先を見据え、21 世紀スキルを身に付けるためのプログラムを実施し、進路目標に対して高いレベルでの実現を目指している。

【Ⅰ 三田高校の取組】

臨時休業期間中は、Classi や Zoom、YouTube、HP 等を活用して課題や授業動画を配信した。テストの配信や生徒・保護者への連絡、生徒とのコミュニケーション、授業理解度アンケート等は主に Classi を活用した。保護者会や進路指導は、YouTube を活用した。

一斉登校後は、多くの時間を要する動画作成ではなく、Classi を活用して課題を配信し、生徒は事前に予習してから授業に取り組んできた。また、BYOD で Wi-Fi 環境が整っており、QR コードを事前に提示し、授業中に生徒は自分のスマートフォンに表示される解答で答え合わせを行うなど、コロナ禍の対応により、学校の ICT 化が急速に進んだ。

広い会議室がないため、感染症対策と Teams 利用の校内研修も兼ねて Microsoft の Teams を用いてオンライン職員会議をこれまで4回実施した。毎回15~20名程の教員が職員室にてオンラインで職員会議に参加した。この形式が定着し、生徒が体調不良を訴えた場合など、急な対応が必要になった際も職員室に教員がいるため、迅速に対応することが可能となった。

【Ⅱ 工夫】

○学校及びPTAから保護者へ連絡する一斉連絡メール（マ・メール）にURLを添付し、保護者が観たい動画や通知、情報サイト等にアクセスできるようになったことで、利便性が飛躍的に向上した。

○Classi で教材を配信しても時系列で後順位となり埋もれてしまうため、学年ごとに配信された教材等をまとめた表をHPの専用BOXに入れて示し、課題の見逃しを防いだ。

○ヘッドセットとWebカメラを購入し、自宅からでも企画調整会議等の会議ができるように計画するとともに、会議資料のペーパーレス化を進めている。

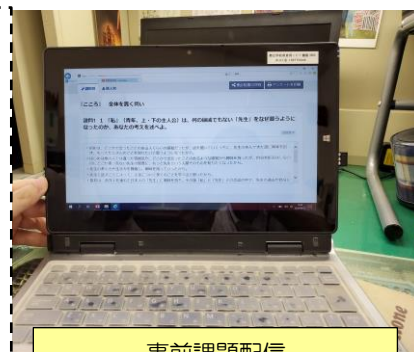
《コロナ禍であっても、授業を実施する上で良かったと思うこと》

◆授業中の生徒の集中度アップ

教室でしか出来ない学びと家庭学習との線引きをし、家庭学習の成果をWebテストで確認した後、教室で課題解決学習を行うなど、授業毎のねらいがより明確となり、生徒は集中して取り組むようになった。また、教員も授業毎のねらいをこれまで以上に意識したことにより、思考力・判断力を養う授業実践が増え、発問もブラッシュアップされた。

◆事前課題を配信することによる授業の工夫

事前課題を配信し、生徒に予習をClassi等に回答させることで、授業の導入時に全生徒のコメントを共有することができるようになった。このため、導入の段階から情報を共有する時間（例えば生徒の発言を聞いたりする時間など）を省略することができた。また、全生徒のコメントを踏まえた上で授業が展開できるため、生徒はより多くの見方・考え方を知ることができるため、深い学びに繋がった。



事前課題配信

《学校紹介》

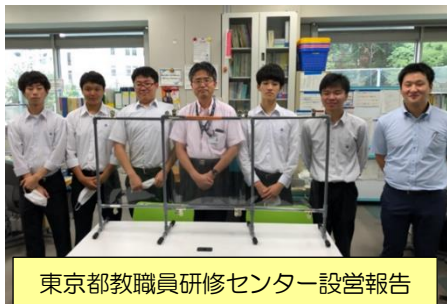
変化の激しい社会に対応していくため、三田高校は、「高い志の進路指導と国際理解教育」でグローバル人材を育成し、イノベーター＝革新者を育成する教育活動を展開している。

「知的探究イノベーター推進校」の指定を受け、「総合的な探究の時間」で取り組む「課題研究」を通じて、知的探究を深める力を育てている。

【その他の指定校：「進学指導推進校」、「英語教育推進校」、「海外学校間交流推進校」、「Society5.0に向けた学習方法研究校」】

【Ⅰ 蔵前工業高校の授業での取組（飛沫防止パーティション「蔵工しきるくん」の製作）】

- 全日制 設備工業科3学年「課題研究」では、授業のテーマに新型コロナウイルス感染症対策を設定し、飛沫防止パーティションの設計・製作を行いました。生徒の考えた製品が評価され、浅草中学校の技術室机上パーティションや、東京都教職員研修センターの執務室等に導入していただき、生徒にとって、活躍の場が広がり、自信につながりました。
- 定時制 建築工学科2学年「総合的な探究の時間」の中で「人間と社会」の学習を実施しています。年間指導計画の中で、「支えあう社会（防災・災害支援学習）」として、当初、外部防災関連施設での体験学習を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症対策により体験施設での体験ができなくなったため、計画を変更して、防災と地域の安全のために利用できる「飛沫防止パーティションの製作」を行いました。



東京都教職員研修センター設置報告



浅草中学校 技術室に設置

【Ⅱ 工夫と生徒の声】

- 塩ビ管や塩ビシートは、ホームセンター等で安く購入でき、軽くて頑丈で、この「蔵工しきる君」は構造も単純なので、誰でも簡単に組み立てられます。そして、塩ビ管は、配管実習で使用するのので、「蔵前しきる君」が不要になった場合は、設備工業実習の授業等で再利用できるのがポイントです。
- 製作で工夫した所は、塩ビ管をエルボ（配管の曲がり部の継手部品）等にはめ込む時に、抜けにくくなるように管の面取りをしました。次に、継手と管の高さが合わないため、スポンジをはめることにしました。
- 浅草中学校や東京都教職員研修センターに部品を搬入し、仲間と協力して組み立てて設置しました。部品を運ぶのは大変でしたが、浅草中学校の先生や東京都教職員研修センターの皆さんから「とても良い物をどうもありがとう。」と感謝の言葉を多くいただき、大きな達成感と充実感を得ることができました。
- 定時制は、全日制設備工業科の生徒が製作したものを参考にして、建築工学科の実習で使用する材料と工具を活用して、飛沫防止パーティションを製作しました。地域の幼稚園で利用していただくことを想定し、園児のみなさんが利用しても、安全で扱いやすいものを心掛けて製作しました。



塩ビ管の切断と安全加工



組立作業



設置作業

《学校より》

- 今回の活動は、将来の技術者として貴重な体験になりました。また、浅草中学校には、分かりにくい設備工業科の学習内容を、この「しきる君」を通して、理解を深めることができたことは、学校紹介として、大変有意義な活動でした。
(全日制 副校長 山本 将英)
- 地域の幼稚園に、製作中の写真を見ていただいたところ、快く利用していただけることになりました。今後、6台を納品予定です。蔵前工業高校は、自他の安全に配慮したものづくり人材を育成する学校として、日々の学習活動を通して指導をしています。身近にある実習材料から、安心のための安全な製品を設計して人々の役に立つ製品を製作できた経験は、将来の技術者として貴重な体験となったと思います。本校は、今後も思いやりの心や社会に貢献する精神をものづくりを通して育成していきます。
(定時制 副校長 佐々木 敏治)

【Ⅰ 葛飾ろう学校専攻科の取組】

葛飾ろう学校では、Microsoft Teams を活用した、双方向型のオンライン学習を推進しています。生徒自らがオンライン画面の構成を行い、学校の「動画配信マニュアルの作成」に取り組んだ授業について紹介します。

- 授業名：専攻科 修了研究 ○単元名：「動画配信マニュアルの作成」
- 対 象：専攻科2年 流通ビジネス類型 商業・情報系
- 内 容：①ライブ画面、スライド、文字を1つにまとめた画面の作成について
②動画配信マニュアルの作成（教員・生徒のための操作マニュアル作成）

【Ⅱ 工夫】

① ライブ画面、スライド、文字を1つにまとめた画面の工夫

- ・ライブ画面に、スライド（パワーポイント資料）及び文字（UDトークを活用）を挿入する。
- ・文字情報・音声情報を組み合わせ、すべての生徒が情報を正しく理解できるようにした。

UDトーク

- ・音声を文字化するアプリ。PC等との連携で、誤変換された文字をリアルタイムで修正できる。文字データは保存可能で、後から内容を確認できる。

①画面の工夫

ライブ画面

スライド

文字



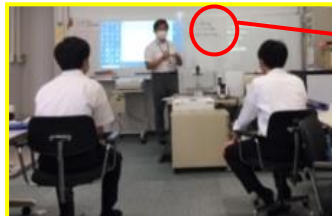
② 動画配信マニュアルの作成

- ・2名の生徒が「動画配信マニュアル」を作成し、生徒や教員が各教室でオンライン画面を活用できるようにした。

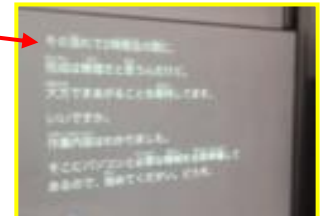
②動画配信マニュアル



③教師の説明



音声文字化



③ 教師の説明の工夫

- ・説明の際、手話以外にUDトークを用いて、音声を文字化し、情報を正確に伝えている。

生徒の声

- 私たちが普段見ているテレビや映画にも字幕が活用されています。授業を通して、画面の合成の仕組みを理解することができました。
- 相手に分かりやすく伝えること、説明することが、とても大変でした。映像と字幕を併せた動画配信の操作について学び、就職先でのコミュニケーションツールとして、活用したいです。

《専攻科の紹介》

- 教育内容・・・聴覚に障害のある生徒を対象に、高等部、高等学校で学んだ基礎・基本の上に、より精深的な職業に関する専門的知識と技能について学びます。生徒の多様な進路希望のニーズに応えるため、2類型5系に分かれて教育活動を行っています。修業年限は2年間となります。
- 卒業後の進路・・・トヨタ自動車（株）、博報堂DYアイ・オー（株）、（株）ホテルオークラ東京、（株）ユニクロ、四年制大学など
- 授業見学を希望される方は、下記の連絡先にお問い合わせください。

【担当】 都立葛飾ろう学校 副校長 岡部 敏枝

電話 (03) 3606-0121

【Ⅰ 文京盲学校専攻科の取組】

文京盲学校専攻科では、「学びを保証する」観点から、学校独自の実技教育ガイドラインを作成し、コロナ対策を徹底した上で、段階的に実技実習に取り組んでいます。

○授業名：保健医療臨床実習	○対象：保健医療科第3学年
○内容：医療面接、あん摩マッサージ、電子カルテの入力等	

【Ⅱ 工夫】

① 実技教育ガイドラインに基づいた授業の実施

- ・チェックリストを活用した衛生的手洗い、使用物品の清拭等の確認
- ・マスクとフェイスシールドの着用の徹底
- ・患者に対する施術に必要な物品の依頼
- ※バスタオル等（用具の使いまわしをしない）

チェックリストの活用

環3 臨床実習衛生チェックリスト				
日付・時間等 月 日 時				
使用教室 第1臨床室				
担当者				
授業開始時の確認				
氏名	マスク着用	フェイスシールド着用	検査結果	実習後の確認

使用物品の清拭



マッサージの様子



② 障害の特性に応じたICT機器の活用

～スクリーンリーダーの活用～

◎スクリーンリーダー

- ・画面の表示内容とキーボードからの入力内容を読み上げるソフトです。入力した文字が音声化されるため、視覚障害のある生徒も正確な患者情報を記録として残すことができます。

スクリーンリーダー活用場面① ～ 医療面接 ～

- ・患者の主訴や要望を聞き取り、入力しています。入力内容がイヤホンを通して聞こえています。正確な入力だけではなく、患者の思いを受け止め、インフォームドコンセントを形成することが重要です。



スクリーンリーダー活用場面② ～ 電子カルテの入力 ～

- ・医療面接、あん摩マッサージを終えた後、患者情報を入力します。患者の主訴、一般健康状態、患者の要求、既往歴、家族の病歴などの情報を正確に入力し、次回の診察・施術が効果的に行われるようにします。

《専攻科の紹介》

- 教育内容・・・高等学校を卒業した生徒が、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の資格取得を目指し、国家試験に向けた専門的な職業教育を中心に行っています。修業年限は3年間となります。
- 卒業後の進路・・・各資格取得後、企業内ヘルスキーパー、治療院等に就職します。
- 学校では、毎週火曜日・木曜日の臨床実習の時間に施術(あん摩マッサージ)を行っています。授業見学を希望される方は、下記の連絡先にお問い合わせください。

【担当】

都立文京盲学校 副校長 近藤 美紀
電話 (03) 3811-5714